

科目責任者 越前 宏俊 (薬物治療学教室)

■ 教育目的

この講義では、4年次までに薬物治療学の系統講義を履修し、5年次の病院および薬局における標準実習と各特別コースを履修した学生に対して、総合的な観点で薬物治療学の授業を行う。授業内容は、知識伝達型の講義ではなく、担当教員がそれぞれの専門分野において最先端の医学問題、社会的な問題などを取り上げ、系統講義ではなしえない深く問題を掘り下げた講義を行う。学生は、教員の思想、体験、歴史を背景とした講義に、主体的に参加し、自らの意見を述べて授業に参加することが求められる。

■ 学習到達目標

1. 受け身の講義ではなく、自らが意見を述べて授業に参加できる
2. 薬物治療の最先端の問題を理解できる
3. 薬物治療を社会的な観点から考えることができる
4. 患者と医療者の関係を自らの問題として考えることができる

■ 準備学習（予習・復習）

予習：シラバスで提示された講義内容の予備調査

復習：該当講義の知識確認と不足部分の補充に関する自主学習

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	職業としての薬剤師	医療人と患者との関係の歴史の変遷と医療経済の危機、医療記録（SOAP含む）	D-1、A-2
2	特殊患者集団の薬物治療（1）	テーラーメイド薬物治療（薬物動態と感受性の遺伝多型）、小児	A-2、D-1
3	特殊患者集団の薬物治療（2）	妊婦・授乳婦の薬物治療	A-2、D-1
4	女性疾患	月経異常、不妊症、人工受精、子宮筋腫、更年期障害、子宮内膜症など	C14（2）
5	中毒・救急・蘇生	中毒の薬学的治療法、救命学	C14（4）
6	臓器移植	免疫を中心とした薬物治療	C14（2）
7	麻酔・周術期薬物治療	外科的疾患・疼痛管理・手術室での薬物治療	C11-1
8	栄養療法特論	栄養療法の基本概念の解説	C11-1
9	栄養療法特論・演習（1）	食道がんの栄養療法の演習と解説	C11-1
10	栄養療法特論・演習（2）	褥瘡（じょくそう）の栄養療法の演習と解説	C17-1
11	皮膚疾患の薬物治療	皮疹の見方、皮膚疾患の治療学	C17-1
12	注目の新規医薬品と薬物治療	過去1～2年間の新薬や薬物治療のトピックス	C14、C15(1)
13	注目の新規医薬品と薬物治療	過去1～2年間の新薬や薬物治療のトピックス	C14、C15(1)
14	内分泌代謝領域の進歩	糖尿病診療、内分泌・代謝疾患診療の進歩	C14-1-1
15	臨床検査学領域の進歩	臨床検査学最近の進歩と注意点	C14-1-1

■ 授業分担者

No.1～2、11：越前 宏俊、No.3～4：野澤 玲子、No.5～7：石橋 賢一、No.8～10：伊東 明彦、No.12～13：小川 竜一、No.14～15：庄司 優

■ 成績評価方法

出席（10％）と期末試験（90％）が基本評価。授業での発言が加算点として評価する。その他レポートなどあれば考慮する。

■ 教科書

Dynamed（学内専用；<http://www.ebsco.co.jp/medical/dynamed/>）、国立成育医療研究センター：妊娠と薬情報センターサイト（<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/>）

■ その他

AB クラス合同講義